

No.17 たにかしらっ子だより

令和4年9月8日(木)
金丸恵美子

子ども達の笑顔が戻ってきました。

今週の月曜日から、半月ぶりに園庭に子ども達のにぎやかな声が響いています。療養期間を終えた子ども達、登園を自粛していた子ども達。久しぶりの再会に笑顔があふれていました。

今回の第7派の感染は、谷頭こども園にとって経験したことのない勢いで拡大しその猛威に驚きました。これまで、感染者が出て濃厚接触者や他児に拡がることはありませんでした。家庭内感染もそうでした。子ども達が罹患することは、ほとんどなかったのです。家庭内においても、両親や兄弟姉妹に広がりそのために療養期間や待機の期間が伸び長期に渡る休みになってしまったようです。

この半月の出席数は、平日は半分以下。土曜日は10人前後でした。今回は職員の感染はゼロでした。子ども出席数に合わせて職員を配置し、子どもも大人も密を避け、より少ない人数で過ごすことができました。

9月1日現在85名の子ども達が在籍しています。これまでの子ども達のコロナ感染の罹患率は36%。職員は11%です。**子どもと職員を合わせた罹患率は30%**。谷頭こども園で過ごす3割が既にコロナ感染症に罹っています。数字で表すとよりこの感染症が、誰でもが罹りうる身近な病気だと実感できます。

今回のことで「職員の皆さんは大丈夫ですか」、「園が休園にならず仕事に行けるから助かる」、「気にしないでください、みんながかかる病気ですよ…」などの温かいお言葉。そして保護者の皆様が工面して子ども達の登園自粛にご協力下さったことをうれしく思います。次から次に拡がっていく感染に驚き心配もしましたが、クラス閉鎖や休園の処置をとることなく教育、保育ができたことは、保護者の皆様のご理解とご協力があったからこそのことでした。感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後も再度このような状況に陥るとも限りません。引き続き変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。

子どもにとっての遊びとは…

「今日は何をして遊んだんね」迎えるばあちゃんが毎日のように孫に聞いたそうです。長男が保育園の頃の話です。時々「遊んでないよ！散歩だったから…」と不満げに。「散歩に行ったから遊んだでしょうが」「遊んでない。僕はどこにも行かんで、砂場で池を作りたかったんだよ」と答えたとか。長男は、やたら「遊んでない」を連発していたと義母が笑っていました。この頃の私は、子どもにとっての『遊び』の本当の意味を知りませんでした。ましてや、『遊んでない』と答えた我が子の心の内を知る由もありませんでした。

それに、気づかされたのは、「野育の会」の研修で天野秀昭氏の講演に参加した時でした。天野氏は子どもにとっての遊びは、「**子ども自身が自ら選び決めた遊び**」、「**大人がやらせたことは遊びにならない**」と説かれたのです。現在私達社協3園は、子ども達が選択できるたくさんの遊びやコーナー、遊具や道具を園庭や室内に配置しています。可能な限り選択肢を多く設け遊び込める環境を整えています。登園して直ぐに、園庭のどこかで。雨の日なら室内で自分のやりたいことを見つけて遊んでいます。やりたいことが見つけられなかったり、調子が出ない時は、ポーとしても良いのです。

以前の保育は、管理的で指示的だったと断言できます。クラスの主活動は担任が決めていました。例えば、お絵描きや粘土遊び、製作活動や運動遊びなどです。それらの活動を保育士主導(指導)のもと、クラスの全員が参加するのです。「したくない…」と言う子どもはほとんどいませんでした。ただ、したくなさそうな子どもはいました。子ども達が、私に合わせてくれていたのです。できるならば、あの頃の子ども達に謝りたいです。そう言えば「これが終わったら外で遊んでいい？」と聞く子どももいました。今やっていることを遊びとは思っていませんでした。長男の「散歩に行ったから遊んでない」と同じです。

認定こども園保育教育要領に示されている教育は、『主体は子どもであること』『環境を通した教育保育であること』が明記されています。これは子ども達に生きていく力を育てたいという趣旨です。子ども達の意思決定が保証されていることは、「必要な時にみんなと同じ行動をしようと**自分で判断できる子ども**」を育てていることだと自負しています。「みんないっしょに」の従来の考え方から、「**子どもひとりひとりのやりたい**」に添える保育者でありたいと思います。